



今月のトーク/monthly talk

「Ys terrace denenchofu」撮影：木谷元

コンクリートの表情

日本における RC 造住宅の歴史は古く、なかでも先駆けとして有名なのが、1916 年に竣工した長崎県の軍艦島にある RC 造集合住宅「30 号棟」。100 年以上たった今でも解体されず、その姿を残しています。その後多くの建築家の手によって RC 造住宅が建築され、建築家 安藤忠雄氏や鈴木脩氏など、その名を残す建築作品には、多くの RC 造の建物が見受けられるようになりました。RC 造建築に欠かせないのが、コンクリートを打設する際に使用される型枠材。建物構造部の形成材であり、外壁などの意匠を決めるうえでとても重要な建材です。当時は見た目も美しく加工がしやすいことから杉板型枠が主流で、1960 年に建設された名古屋大学豊田講堂は、当時の最新技術であるコンクリート打ち放しを表現するにあたり杉板本実型枠が採用された、歴史的にも貴重な建築物です。1965 年頃になると、コンクリート型枠用合板（コンパネ）が普及し始め、脱型後の均一性の高さや再利用性などの観点から型枠材の主流となっていきました。今では建築技術が大きく発展し、木製型枠の他にパネコート型枠や FRP 型枠、鋼製型枠、型枠にシートを貼り付けて様々な表情を生み出すなど、その表現の自由度は大きく変化しています。

「建て主様のご要望が『シンプル・スマート・オープン』でしたので、賃貸部と建て主邸の綺麗な関係性とスラブの重量感を軽減させるため、水平にスラブを浮かべて層間に大きな開口がある構成を採用し

ました。スラブ層間の仕上げ素材は木とコンクリートの 2 種のみで構成し、シンプルさと洗練さを演出してありますが、コンクリートは表情を出すためにいろいろな型枠を検討しました。その最中、数ある施工事例を確認していたところ、以前辰さんで建築された『千駄ヶ谷公衆便所』の洗い出しシート型枠仕上げが浮上。実際に見に行き、その表情の出かたに納得したので採用したんです」と「Ys terrace denenchofu」の設計を担当された PORTLOUNGE の幸山真也氏。

表現の自由度が高い RC 造建築ですが、思い描くその表情に至るまでは、いくつもの苦労があったそうです。

「表情を出すのが難しいと伺っていましたが、やってみると本当に大変でした。打設のタイミング次第で躯体自体の色も変化するし、脱型後の洗浄圧が少し違うと均一に出なかったり。また、今回構造上配筋計画が複雑だったので、打設自体も難易度が高かったと思います。ですが、最終的には綺麗にまとめていただき、とても味のある表情を造ることが出来ました。非常に感謝しています」（幸山氏）

無機質で洗練された雰囲気演出でき、型枠の継ぎ目や P コンもデザインの一部として評価される RC 造建築。素材の組み合わせでコントラストを付けることで無限の表現ができます。RC 造建築が得意な弊社も、その魅力に取りつかれた 1 ユーザーに過ぎないのです。

Ys terrace denenchofu



建物全景。街に溶け込む外観



2 階。フルオープンサッシから望む絶景



2 階リビングダイニング。天井はグリッド梁



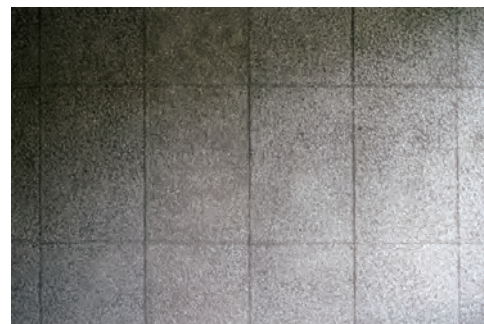
エントランス



「壁が開く」イメージを形にした、無駄のない木製建具



高級感のある水回り



こだわりのある外壁洗い出し仕上げ

浮遊スラブ

「シンプル・スマート・オープン」をテーマに、田園調布という街を見たとき、街に溶け込み目つ高級住宅街に建つに値する洗練さは必須であった。派手過ぎず、控えめではあるが漂う重厚感。それらを満たし、建て主様が喜ぶ建物になるよう、まずは空間構成を決めていく。

三層のスラブを浮かせたように見せるポイントとして、最上階のバルコニー側サッシをフルオープンとし、開放的な空間とする目的があった。天井のグリッド梁と、サッシ間にある厚さ 300 mmほどの壁柱を X 軸 Y 軸で配置し下階に力を流す構造とすることで、フルオープンサッシでかつ、無柱空間とすることができた。

また、ワンルーム自体を凹凸のない大きな空間とするため、枠無しの扉を採用。各機能のある部屋は建物背面側に集約し、リビングから多摩川の眺望を余すことなく楽しめるように計画。間仕切壁の「扉」という存在感を無くすため、敢えて壁・扉にリブを設置し、「壁が開く」という、生活感を漂わせない工夫を施した。

建て主様の想いから、貸室間取りはメゾネットを採用。200 m²を有し、また接地性を高めるため、玄関アプローチと庭先を設けた。これは一棟一棟の建物が大きい田園調布の街並みならではであり、貸家であるが、一戸建て住宅の邸宅感を与える意味でも非常に意識した点である。

内装は、海外の方でも不自由なく使えるよう、水回りやキッチン は外国人スケールに合わせて設計。「田園調布・賃貸・200 m²」の条件に該当する仕上がりとなった。

洗練された、自由度の高い住居空間で、田園調布ならではの生活を過ごしていただきたい。

(PORTLOUNGE / 幸山真也氏 談)



全景パノラマ



貸室アプローチ



海外向けを意識した貸室リビング

構造：RC 造
規模：地下 1 階・地上 2 階
用途：共同住宅 3 戸
設計：PORTLOUNGE / 幸山真也・内保由衣・駒澤浩史・阪田恵美・川崎浩史・Phyo Kyaw Pyae
竣工：2025 年 10 月
施工担当：池上・田中／池上チーム
撮影：木谷元

Shinya Kohyama



今月は、「Ys terrace denenchofu」の設計者、PORTLOUNGEの主幸 幸山真也氏にお話を伺いました。

一もともと建築にご興味がおありだったのでしょうか。

幸山：そこまで興味は持っていませんでしたが、なぜか小学校の卒業文集に「建築家」って書いていました（笑）。幼少期から絵を描くのが好きだったのですが、母から「絵を描くことを仕事にするなら建築系だ」と言われていたのも、建築がどういった仕事なのかも分からないままとりあえず文集に書いたんだと思います。

その後、高校で理系を選択したことで進学を決める際、建築学科が目に入り、「そういえば卒業文集でそんなこと書いたな」って思い出して、工学の建築学科に進学しました。

父は内装の施工会社を営んでいましたし、母も絵が上手かったので、「モノづくり」という点では、幼少期から少なからず影響を受けていたのかもしれない。

一大学院ではどのようなご研究をされていたのでしょうか。

幸山：都市開発計画の研究室に在籍していたのですが、建物一棟一棟のデザインではなく、広場や施設などの空間で、実際どのような視点で皆様に使われているかなど、そのあり方や考え方を研究していました。それを設計計画や意匠デザインに落とし込めるように情報を分析するんです。それらは人の立場の目線で見ていくので、心理的な部分や心情的な部分など、その空間を構成する人と環境の関係を分析していくイメージです。「心地が良いとは、こういった環境がもたらしているのか」「なぜその場所に自然と人が集まってくるのか」とか。建築単体ではなく、空間自体の理を解いていく。

例えば、何も無い空間に一人一人が立っていると、他者は取って近づくことはしないけど、そこに植栽を置いたり、段差を付けてあげることで、同じ距離間でも緊張感が少なくなり、人が集まってくる。その違いは何か、というのを突き詰めて研究していくんです。お金をかけて建てたのに人が集まっていない事例や、逆に成功している事例を評価していくと、とても奥が深い。

それをパブリック性のある建物や、大きな建物内にあるホワイエやピロティなども研究対象としておこなっていました。「居心地が良い、

とはどういう空間で、そこに建築はどれくらい寄与しているんだ」とか研究していくと、建物のあり方や必要性、その意味がよく見えます。実際に設計をおこなうときは、その部分は特に

気を使っています。建物空間において、そこにいる人はどこに座るのか、どう見えているのか、どれくらいのボリュームでそれらを感じるのか。

一設計をおこなう前にそのようなストーリーがあるのですね。

幸山：人によって感じ方は違うので、理屈を言葉にするのは結構難しい。なので正解は1つではないんだと思います。それを意識すると、ただカッコいい空間を作るのではなく、考えられた上でそうになっているという本当の設計意図が見えてきます。

建物1つではなく、もっと俯瞰で、ゆるく空間を見ているような。空間構成や接続、その場にいるヒトと空間の関係性から考えて建物を設計していきたいですね。

一日常生活でも気になってしまったりするのは。

幸山：結構気になりますね（笑）。人の動線などは特に。自分で作るときも動線は非常に意識している部分でもあります。人の動きや、人と空間の繋がりは、建物ができたときに最初に確認するところです。今回の「Ys terrace denenchofu」も低層メゾネットで行き来ができ、自分たちのパーソナルな空間が外部にもあります。シンプルな動線構成ですが、多くの点で意識して設計しました。

一独立されてから4年を迎えた今日、今後携わってみたい計画などはありますか。

幸山：前職では1万㎡を超える鉄骨造の建物計画が多かったので、今回のようなRC造の住宅も定期的に行っていきたいですね。直接一般の建て主様と打合せして決めていく場面は、設計として大事なことだと感じています。それと、水族館や公園など人によって使い方が異なる建物も良いですね。お金は生まないけど、その地において重要な意味を持つ場所というのを自分の手で生み出してみたいです。

一素敵な構想ですね。本日はありがとうございました。

幸山 真也（こうやま しんや）

2005年 大阪大学工学部工学研究科 博士後期課程修了
2005年 株式会社プランテック総合計画事務所
2010年 同 執行役員大阪事務所長
2013年 同 取締役大阪事務所長
2014年 同 取締役副社長
2016年 同 代表取締役副社長
2020年 株式会社プランテックアソシエイツ取締役
2022年 株式会社 PORTLOUNGE 代表

<https://www.portlounge.co.jp/>



PORTLOUNGE 事務所にて。左から駒澤氏・内保氏・幸山氏

TOPICS/INFORMATION

ZEN 社一丸大運動会 第13回大会 2025年11月1日(土)

ー よみうりランド 天然芝グラウンド ー

毎年恒例のZENホールディングスの大運動会が開催されました。昨年は雨天により中止となったため、今回2年ぶりの開催。前日まで雨が降っており開催自体が危ぶまれましたが、当日は気持ちの良い秋晴れに恵まれ、「スポーツの秋」を堪能するには十分な環境での開催です。



男女混合参加の玉入れ

運動をおこない競技がスタートしました。第一種目は徒競走です。乳幼児・小学生が自由参加の徒競走(お楽しみ袋付)と小学生参加可の50m走、20～40代の男性メインの135m走で、弊社からも若手社員を中心に選手選考をおこない、高順位を狙います。

第二種目は綱引きの予定でしたが、前日の雨の影響で急遽プログラムを変更。第三種目で予定していた玉入れを2回戦おこなうこととなり、「綱引きといえば辰」としては、大きな得点源を失いかんりの痛手。焦りを感じながらも玉入れがスタートし、老若男女問わず、皆一心不乱に籠へ玉を投げ込みます。



玉入れが終了すると、第四種目の軽快に送られた大玉おくりマラソンがおこなわれ、720m・1080mを走りきり、午前の部が終了。各自控エントに戻り昼食・休憩を取りました。

第五種目はレクリエーションのO×ゲーム(チーム得点非対象)で、続く第六種目は大玉おくり。綱引きが中止となったことで、ここで大量得点が欲しい辰。1位を取り、その後の競技を有利に進めていきたいところです。競技スタート時点で32秒以内にゴールすれば、その勝機があると分かり、参加者気合を入れて配置に整列。スタートの合図と共に走り出し、勢いよく送られる大玉は、流れるように頭上を通過。岩本と第1建築部田中の



持久力が試されるマラソン

素早い玉送りによって折り返しし、最速で大玉を鎮座台に置きます。タイムは22秒。見事種目1位を獲得し、皆で大歓喜を上げました。



第七種目のムカデ競争では、なかなか息が合わずつまづく場面が。残念ながら種目最下位となり、この時点で辰が優勝するには、次の最終種目タスキを繋いだムカデリレーである事業会社対抗リレーで現在1位のZEN連合に勝つor1位を取ることに絞られました。今年は社長or役員の参加が必須な代表者選抜リレーと各社俊足を揃えた真正正銘のガチンコリレーの2レースがおこなわれ、トラックを囲むように大観衆が見守るなかレースがスタート。各社社旗を大きくはためかせながら割れんばかりの声援を送ります。激しい競合いや、熱いデッドヒートに大きな歓声が鳴り止みません。果たして結果は...

大歓声のなか全競技が終了し、最後は全体でのストレッチ、お楽しみ抽選会を経て閉会式となりました。



リレーでは、ギャラリも熱く盛り上がったデッドヒートの末、種目1位を獲得していました。王者防衛のため、次回大会も気が抜けない戦いとなるでしょう。贈られた優勝旗は、本社エントランスに飾られています。ご来社の際はぜひご覧ください。競技に参加された方々、大変お疲れ様でした。

得点順位が発表され、見事第13回大会を制したのは獲得点513の株式会社辰。第8回大会ぶり、4度目の総合優勝です。7年越しの王者奪還に、発表の瞬間は参加者全員喜びの声を上げました。最終種目のリレーは、



【総合順位】

- 1位 辰 513点
- 2位 LP 西洋 423点
- 3位 ZEN 連合 417点
- 4位 池田建設 356点
- 5位 ユニホー 286点

優勝旗と共に記念写真。皆様お疲れ様でした。次回大会も優勝!

「HARVEY 芝大門」新築工事

安全祈願祭 10月29日(水)



やっとの思いで着工することが出来ました。竣工に向けて安全に工事を取り組んで参ります。

構造/規模: SRC造/地上8階
用途: 店舗・事務所
設計: 小川晋一都市建築設計事務所
施工担当: 鯨津・福永・牧山・酒井/鯨津チーム
竣工日: 2026年12月

「(仮称)世田谷区尾山台一丁目PJ」新築工事

上棟式 10月20日(月)



工期も問題なく進んでおります。残りの内装も安全に取り組んで参ります。

構造/規模: S造/地上3階
用途: 長屋
設計: 坂本建築設計事務所
施工担当: 鯨津・鯨津チーム
竣工日: 2025年12月

編集後記

・毎年恒例の大運動会、非常に盛り上がりしました。社会人になると勝負ごとに本気で向き合う機会は減ってしまいます。童心に戻り、その熱い気持ちを呼び起こしてくれる本会は社員・ご家族・協力業者にとっても素晴らしいものだと思います。競技に出ても出なくても気持ちは1つ! 次回大会も楽しみです。

(株)辰 通信 Vol.308 発行日 2025年11月10日

編集人: 本間夏来/土屋祐一郎 発行人: 岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

